

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社 ten
施設名	ten kids 玉川台園
報告者（役職）	松本 緑（園長）
住所・連絡先	東京都世田谷区玉川台 1 丁目 1 - 1 ニューガイアリールーム用賀No.32
	☎ 03-6805-6086 E-mail matsumoto@ten100.jp

○タイトル（保育計画）

『絵本 読んで！ もう一回読んで！』 心と心をつなぐ絵本の役割

○主な助成備品

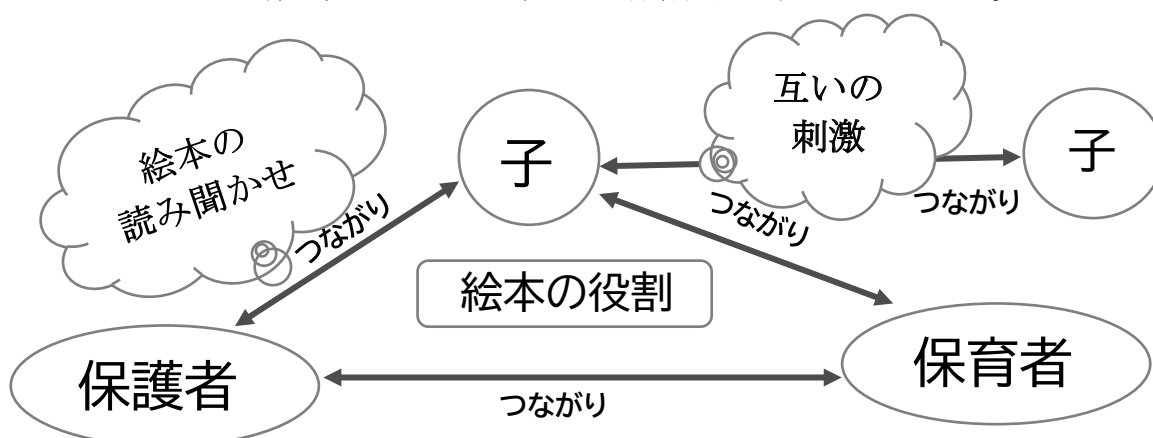
絵本棚・絵本

1. 保育計画策定の目的

2022年度、開園した当初は園児6名（1歳児2名・2歳児4名）でしたが、本年度は、低年齢児の保育需要が高まり、定員いっぱいとなりました。

最近では育児環境が大きく様変わりし、育児に悩む親が急増しています。当園でも愛着形成が弱いなど気になる親子関係が見られ、それだけに子育て支援が求められています。特に乳児期は、他の年齢に比べて発達が著しい時期であることや、愛着が形成されやすい時期だと言われています。そのため、現代の親子が抱える課題に対しては、他との心の通い合いや思いやり、さらに信頼関係づくりを体験することが重要であると考えました。

保育者と子ども・子どもと子ども・保護者と子ども、保育者と保護者のそれぞれの間に絵本がある環境こそが子どもの心の成長に良い影響があるのではないかと考えます。絵本の読み聞かせは、子どもが安心を感じるだけではなく、豊かな体験にもつながります。子どもがたくさんの絵本に出会うことで、心が動き、「絵本読んで」「もう一回読んで」と絵本に囲まれた子どもたちを想像し、子どもの心に着目した保育計画を策定いたしました。



2. 具体的な実施内容

①保育者全員で話し合う

《今までの読み聞かせの反省点》

- ・絵本の読み聞かせをするとき、「教える」「知らせる」を意識して自分の気持ちを押し付けるような言葉かけをすることがあった。
- ・保護者へ『絵本』と関わる姿など、伝えることがほとんどなかった。
- ・園児全体で読むときと、1対1で読み聞かせをするときで、保育者は気持ちの切り替えができていなかった。また、気持ちが込められていなかった。(保育者の課題)
- ・絵本に対して保護者の関心が少ない。家庭での読み聞かせの様子を聞くことがない。

《気づきを活かす》

- ・情緒が安定する場所に絵本が設置されているか。
- ・保育者が「おもしろかった?」「たのしかった?」など言うのではなく、子ども自身がどのように捉えているかが問題であることがわかった。子どものつぶやきを大切にしながら読み聞かせをする。
- ・保護者へもっと、『絵本と子ども』について伝えていきたい。(つながりを大切にする)

《絵本棚どこに置くの?》《絵本を見るときは、いつも絵本コーナーで見るの?》

- ・絵本棚は、親子共に目につく場所が適切ではないか。保育者は、送迎時の親子の様子を見ながら心温まる雰囲気づくりをする。
- ・絵本は子どもたちが日々活動できる場所で手に取って試みることができる『生活の場』が適切ではないか。絵本の設置は1か所でなく、玄関と保育室にする。
- ・0歳児1歳児(低月齢)は絵本を取り出しやすく箱にする。

《保育へどう取り入れるの?》

- ・一人ひとりの子どもが遊ぶ姿を丁寧に話し合ったことに基づき、生活や遊び(養護及び教育の5領域)を意識しながら絵本を取り入れた保育の流れにする。
カリキュラムの立案については、記入しやすい方法を話し合った。

絵本棚は、親子が心と心をつなぐ『絵本棚・絵本』になってほしいという願いが優先されて、玄関の近くということになった。「おはよう」の挨拶後、手洗いを済ませて保育室へ向きを変えると、その場所に、にっこり笑顔で迎えてくれる「絵本棚」がある。親子だけでなく、保育者もたくさんの絵本に迎えられる。

この絵本棚の絵本から、この場から、子どもの笑顔あり、感動ありの実践が生まれた。玄関に設置された絵本棚は、玉川台園を利用する親子・保育者にとっては、心を動かされた生活の一部になっている。

② 子どもにとって遊びの環境に『絵本』をどのように取り入れるのがよいか検討した

- ・保育園での絵本の存在を意識付けるようにした。
- ・絵本を見る約束は、一つに絞る。『絵本を大切にしよう』とした。
- ・絵本は保育園で読み聞かせや絵本の絵を見て楽しんでいる。
その後の継続活動の難しさがあるが、無理をしないで見守るようにする。

③ 絵本棚の周りの様子

通常より早い迎えの母

子どもの準備ができるまで、子ども向けや大人向けの絵本を読んでいる母親の姿がある。子どもが帰る準備ができて母に声を掛けにくいほど集中している。

見学者の方より

たくさんの絵本ですね。絵本がたくさんあるっていいですね。

親子で登園

母：「アッ！ Yちゃんのすきな えほん があるね」
「よんで～ よんで～」
「じゃあ 1回だけね」
「もっ（もう） 1回」
※先生も見たいな 一緒に読むことになりました。ママはお仕事へ行かれても、Yちゃん、満足でした。



親子で登園後に

「おはようございます」
「あら？ 今日も？」
「あら？ 今日はたくさんの絵本 持ってるね～」
毎日、自分が読んでほしい絵本を、何冊も持って、保育室へ持参。保育者に手渡していました。

降園時 親子

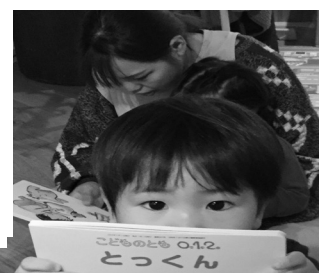
「あっ ママだ～」の後は、絵本の前で・・・ママのお膝に座って、絵本を読んでもらっている姿が増えました。そして、登園時泣いていた子どもが泣かなくなった？ ママと絵本を見ながら、〇〇××△△・・・の会話？を楽しんでいました。その姿に感動の毎日です。忙しいママに感謝♥

④ 玉川台園 『絵本コーナー』を紹介しよう（子ども達や保護者に知らせる）

○子ども達には、全児で見る時間と一人で見ると時間をつくろう。



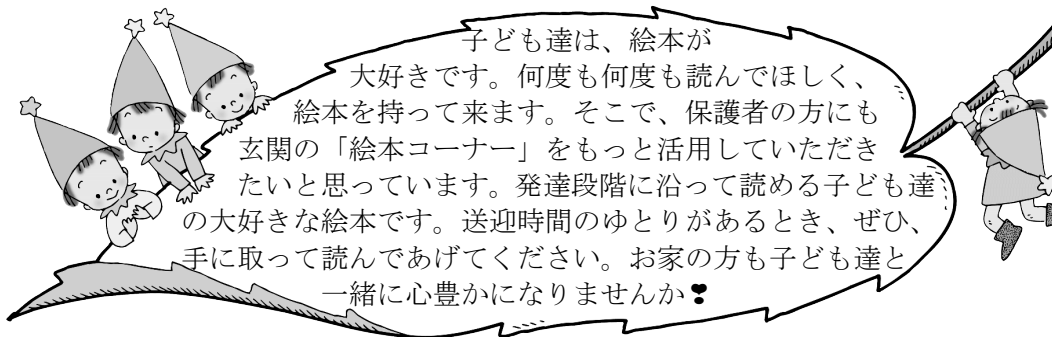
- ・全児向けは、おやつの前、行事の前、お茶を飲む前など子ども達が集まる時間に読み聞かせをする。意図的に全児に読み聞かせをするときはカリキュラムを立案する。
- ・一人で読むという体験は、一人ひとりが絵本を選んで見るようにする。また、絵本棚を設置している場所に、常時テーブルと椅子を設置している場所がある。絵本を『座って見る』という習慣が付き始めている。



○保護者には、子どもの送迎時に、絵本の利用方法を説明する。

- ・毎月の「園だより」で絵本について（絵本の魅力・絵本の力）を知らせたり、その時期の読み聞かせにおすすめの絵本の紹介をしたりする。

「園だより」より 絵本との関わりや絵本の紹介もしている（毎月）



子ども達は、絵本が大好きです。何度も何度も読んでほしく、絵本を持って来ます。そこで、保護者の方にも玄関の「絵本コーナー」をもっと活用していただきたいと思っています。発達段階に沿って読める子ども達の大好きな絵本です。送迎時間のゆとりがあるとき、ぜひ、手に取って読んであげてください。お家の方も子ども達と一緒に心豊かになりませんか？

⑤ 保育園の絵本だけでなく、他の場所（家庭他）でも絵本に親しむ機会を取り入れる

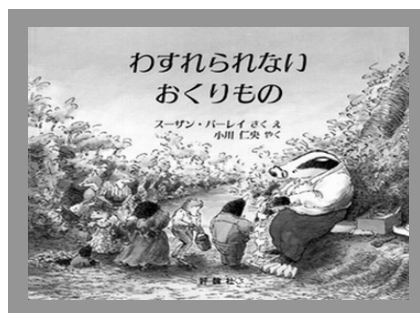
- 家庭での絵本との触れ合い～家族の人に無理のない程度で読み聞かせをしていただく。
- 児童館（図書コーナー）図書館などを利用する。

「ひとつなぎ」と「絵本」で『生きる力』を学んでいます！

保護者Aさんからお世話になった優しい祖父さまが亡くなられたことをお聞きしました。「1冊の絵本を読んでみて」と差し出しました。すると次のようなお手紙が届きました。

《手紙》

M・M先生へ
いつも大変お世話になっております。
絵本“わすれられないおくりもの”を家族が皆寝てから、ひとり読みました。
絵本よんで 泣いたのは初めてでした・・・
今の私にとっての“アナグマ”は、やはり最近亡くなった祖父です。
まだ、悲しい気持ちはありますが、祖父も“アナグマ”のように自由になったと感じてくれていれば私は嬉しいです。
また、モグラたちのように、お礼を言いたいと思いました。
先生、素敵な本をご紹介してくださり、ありがとうございました。
私も人に、このような本を教えることのできる人間になりたいと思います。
これからもよろしくお願い致します。



「わすれられないおくりもの」の作品のテーマは、「大切な仲間の死を受け入れる」です。アナグマは死んでしまっても、アナグマから教わった知恵や様々なことは残る。森の仲間たち一人一人に残された「宝物」を語り合うことで、いつでも、どこでも、誰と会っても、アナグマの思い出にあえることに仲間たちは気付くのです。

保護者 U・T さん



家でも絵本に親しむ姿があると写真付きで届きました

園でたくさん絵本に触れる機会をつくっていただき、絵本が大好きになりました。家庭で読む機会も増えました。

保護者 R・H さんより

3月で3歳になる次男が、この春卒園します。少し前までは、「言葉が遅い」など、3月生まれの幼さばかりが気になっていました。それが、絵本を見る機会が増えたおかげで語彙も豊富になったようです。園で毎日絵本に親しませていただき、感情表現が豊かになったようにも思います。いろいろとありがとうございました。

3. その成果と評価

保育計画における成果は、玉川台園の子ども達一人一人の成長です。登園時に、安定した気持ちでいることができたり、たくさんの絵本が目の前にあることで、自ら絵本を手にとったり、お気に入りの本を繰り返し読んでみたりする姿がみられました。

絵本の読み聞かせでは、声を側で聞き、自分のために読んでくれる大人の存在を感じながら不安な状況にあっても心の安定につながっているようでした。

保育者が保護者に伝えたいメッセージを、絵本が届けてくれることもある事も体験させていただきました。



4. 今後の課題と展望

今後、玉川台園では絵本と出会うことのできる場所として地域の未就園児を園の開放日に交流の場とするなどして、絵本のすばらしさを伝えていきたいと思えます。

ten kids 玉川台園の玄関入り口には、地域の方がタンポポをプランターに植えてくださり育ててくださっています。今年の1月中旬、ロゼット状の葉のくぼみに、すでに花芽をつけていました。それが、今、大きく花を咲かせようとしています。本年度はいつもと少し違った多くの『絵本に囲まれての子ども達の生活』を見てくれていたタンポポの花は、昨年度より一回りも二回りも大きな花を咲かせてくれそうです。

第一生命財団様からの助成をいただき、保育者も今までの絵本との出会いではなく、心からの絵本との出会いができるようになってきています。“保育者も絵本との出会い”に体験の差がありますが、もっと保育者が優しい気持ちで『絵本と子ども・保護者』に関わっていこうと考えております。来年度は地域の方と手をつなぎたいです。玄関先のタンポポも応援してくれそうです。ten kids 玉川台園は t r y し続けます ♡

以上